

議長記者会見（第34回）会見録

日時：令和元年9月26日（木）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う福村議長（右）と徳野副議長（左）

皆さんご苦労さまです。

今日で我々2回目になります議会が無事終わりました。

今議会もたくさんの活発な質問がありました。主に当面の諸問題として災害対策、というのは日本各地で頻発していますからね。災害がね。石川県は、今はまあ小康状態ですけどね。いつ台風が来るかもしれない。これを万全にしなきゃあね。

また、来年オリンピック・パラリンピックが来ますよね。そういうことを含めてスポーツに関する質問が非常に多かったです。最近、私もあっちこちでよく言うんですが、石川県

は最近スポーツで脚光を浴びることが大変多いですよ。ご存じやと思いますけど、夏、ハンドボールの全国大会がございましてね。このときには小松の芦城中学校が優勝している。そしてこれは珍しいことですが、同じ石川県の能美の寺井中学校が3位になっている。1位と3位に、これは相当珍しいことで全国の皆さんも注目していらっしゃる。それからご存じの甲子園大会は、星稜がね、すごく沸かしてくれた。まあ惜しくも優勝は逸したけど、全国の認知度は非常に強かったと思う。

また、オリンピック出場が決まった川井姉妹にしても伊調さんとの非常に激しいやり取りがあったりしてね。しかも姉妹でオリンピックということで非常に脚光を浴びていますしね。それから、これちょっと違うんですが大相撲の9月場所で人気力士3人、炎鵬、貴景勝、遠藤と、「三羽がらす」って言われていましてね。このうち2人が石川県の力士で毎日のように満員御礼が続いていますけど、今の相撲を牽引しているのは石川県ではないかと見られるくらい注目を浴びています。しかも、恐らくまだこれ以上にオリンピックの選手が、今4人決まっていますが、まだやっぱり何人か、トランポリンとか競歩とか、いろんな種目で何人かふえてくることは間違いない。そうすると今までかつてない人数の県出身のオリンピック選手が出るのではないかと。それから金メダルは松本さんもとっていますけど、ひょっとするとダブルで金メダルをとれるのではないかとというような状況になりましてね、非常に石川県のスポーツに対する脚光というのが特に最近強くなっている。だから私、最近知事にも言っているんですが、石川県は今まで枕言葉は「文化」と「伝統工芸」と「山海の珍味」とこう言ってきたわけですが、ひょっとすると「スポーツ」が加わってくるんじゃないかってね。

明日からですか。国体が始まりますけれど、私も行きますけどね。国体でもしっかり頑張ってもらって何とか千点以上、20位そこそこでね。そしてスポーツの底上げをこういう機会にやっていくべきだとか思っています。

あとは豚コレラの問題、その他にもいろいろありましたけれど、当面の諸問題ということで皆さんからいろいろと質問が出ましたが、率直に言うと、もう少し深みがあって提案型の質問があってもいいかなあと。それから、特に予算委員会、一問一答の仕方をもう少しね。一般質問の切り売りではなくて、やっぱり深く突っ込んでね。一問一答とはそういうことだと思いますからね。そういうことをもう少し議員それぞれ心がけて今後やっていければなと、まあこう思っています。

それから、お気づきかどうか知りませんが、今回は16年ぶりだそうですけどね。知事提案の議案が全会一致、反対討論なしと。これ16年ぶりだそうですね。で、全議員「異議なし」と、こういうことで終わったということで。まあそういう意味でもよかったのかなあと、こういうふうに思っています。

それともう一つ、これはもう6回目ですかね。子供を呼んで「ふれあい親子県議会教室」というのを先月やりまして、これ非常に人気がありまして定員以上に申込みがあるんでね。しかも私も何通か手紙をいただきましたが「もう少し早くから周知をしてほしい」、「こん

なことがあるなら行きたかった」という手紙をいただきましたね。そういう意味では今後も申し込んで来れない人があんまり多くなると場合によってはふやさないかんという気もしておりましてね。来られた子供さんは議会初めてですしね。子供ばかりでなくてついて来られる保護者も初めてなんです。そう意味でも保護者の皆さんからも「非常に勉強になった」と、「議会というものがよくわかった」と、むしろ保護者からも非常に好評な声が出ていまして非常によかったですと思っています。

それから1つ報告をしておきたいのが、前に私、就任の際にも申し上げておりましたけれど、やっぱり議会っていうのは言うまでもなく二元代表制の一角であり、車でいう両輪の一輪であるわけで、やっぱり議会というものはもっと活性化していかなくやならん。質問戦ももっと充実したものにしていかなきゃならんのですが、そのためにはですねやっぱり議員の資質を上げていかなくやなかかわり合えないと、私、率直にこう思います。それで私、議長になったときに釈迦に説法だけれども、この私の任期中に少なくとも2、3回は議員の皆さんの勉強会、研修会ってものを少しやって、お互いに勉強する機会をつくりたいと、こう議運懇談会にも申しまして皆さんの了承もいただきまして、その第1回目をね、今日予定を組みましたが12月3日の12月議会の開会日の午後やりたいと。講師には元総務大臣の増田寛也さんをお呼びして、そして何をやるかと申しますと「地方創生と議会の役割について」というような演題で第1回目をやらしていただきたいと。これは今日の議運懇談会で皆さんから「いいことや」と了解を得ました。それから第2回目を2月中にやりたいとこう思っていますね。これは地方議会総合研究所の廣瀬和彦さんという先生をお呼びしまして、「効果的な質問・質疑のチェックポイント」ということでもう一遍改めて議員の皆さんにどんなふうな質問をすればいいか、どんなところにポイントを置けばいいかを少し勉強したいと、これを2月中にやりたいとこう思っています。できれば3月議会中にももう1回とこう思っています。そんなことを少しやって、やっぱり議会の資質を向上させんと二元代表制の一翼を担うことはできない。まあそうでなければ地方議会の意味がないので、まあそんなことを少しやりながらお互いの資質向上を含めてもう少し議会の活性化をしていきたいなあとこう思っています。

私からは大体その程度のお話をさせていただいて、あとは質問があればお受けします。

<質疑応答>

記者

16年ぶりの知事提出議案の全会一致での賛成ですが、議長から見てどうして今回全会一致につながったと思われますか。

福村議長

そうですね。どちらかという今議会は災害対策がメインでして、安全対策、災害対策、それから当面のやはり県民に密着したぜひやらなきゃならんことを取り上げておるんでね。まあ県民の側から見ても新しい提案っていうのはそうないんでね。そういう意味で県民側から見てもそうだし、議会の変な話、共産党さんから見られてもね。こういう県民に密着した予算について反対するわけにいかないなど。まあそういう意味でとりたてて反対の理由はないと、そういうことだったと思います。

記者

先ほどの勉強会について議長にお伺いしたいのですが、議長のお言葉の中で「議員の資質の向上が」という言葉がありましたけれど、地方議会ではなり手不足などが問題になる中で、議長は議員の役割の変化であるですか質の変化をどのようにお考えでしょうか。

福村議長

皆さん出てこられる人は優秀ですよ。優秀なんですけどね。個々に言うと違いますけど大雑把に言うと、かつてはやっぱり「政治家になろう」、「議員になろう」という人は、もっと若い時期からそういう志を持って、覚悟を持って議員になってこられた人が多かった。ところが今の議員の皆さんは「どうしても地域として必要だから次に出てください」とか、あるいは「まあ出してみようか」とかということを出てこられる人がかなり多くなっているように思います。そういう意味でね、もちろん出てきてから勉強せにゃならんしね。で、志を持った人は出る前から結構政治に関心を持って見てきている。それから昔ほどの覚悟がないといいますか、率直に言うとね。やっぱり議員になる以上は覚悟が必要で、それに没頭しないとなかなか片手間でやっとならね。それでは毎日やっとなら役人に対抗できるわけがない。だからいかに勉強して、それは何年もやっとなら別ですけど。私が出てきたときは「文教」と「公共投資」、この2つを専門分野でやってきましたよ。「文教族」、昔「族」って呼ばれて、マスコミのみなさんから「族議員は悪い」って言われましたけれど、「族」って言葉が悪いんで、私、国会議員もそうだと思うんですが、やっぱり専門をまず持って「これなら役人に負けない」、「役人と多少は渡り合える」というものを持って、それからかばんを広げていかないとね。それもなしに世間話で政治をやるうたって、これは私は議員の役割を本当に果たせないと思いますよ。だから議員になった以上は覚悟を持って、まず自分の専門をつくるためにうんと勉強する。若いうちは、勉強して多少なら役人の言うことに言い返せるくらいのところまでやっぱりやらないとね。そのうちにそれはもう大丈夫となったら、次にまた「福祉」だとかあるいはそれぞれに広げていくと、そういうやり方をやっぱりしていかないとね。「族議員が悪い」ってね「族」ってのが悪いんで、専門議員をふやすことだと私は思っていますよ。私がね、何十年前の話ですが議員になった時は「文教族」、「文教」なら私と中村幸教さんという二人

がおって、これを専門にやっと思ったんでね。そのころ、日教組が非常に強いときで質問戦やっても誰も勝てない、なかなかね。それから役人も勉強してますからね。それで二人で必ず文教委員会に私か中村さんのどっちかが行って対抗してきたもんですよ。だからそうすると自ら勉強せにゃならんしね。そういうやっぱりね。今なら委員会4年で一遍回りますけど、そういうことをかつてはやっていました。専門をね。「これは負けん」というこれを持ってそれから幅広にと、と思いますね。

記者

昔に比べると、今、議長がおっしゃったとおり自分からなりたいというふうに立候補される方よりは、周りの人が推薦のような形でなっていく方が多くなったのですか。

福村議長

率直に言いますと、まあもちろんかつてのように自らなりたいということで、勉強して出てこられる人もおられるが、比率からいうとそういう人が多くなってきているんじゃないか。

記者

そういう部分がやはり質問の質という部分にあらわれているのでしょうか。

福村議長

そう、だからやっぱり勉強したほうがいい。でも勉強するたっていつも講師を呼んでやるわけにいかないんでね。だから講師を呼ぶ勉強会ってのは、ある意味での動機づけですよね。勉強しなきゃならないなあという動機づけなんで、やっぱりこのごろなかなか片手間でね。まあやればできますけれどね。議員は片手間で議会のあるときだけ、公式の行事があるときだけ出てくれば務まりますし、給料も同じほど当たりますし、そうなんだけれども本当に志持ってやろうとしたら、やっぱりしょっちゅう、そんな公式行事がなくても県庁に、議会に出てこなきゃ。そしてその間に役人といろんな話をしたり勉強したり、皆さんとも話をしたりね。そういうことをやってやっぱり知識を積み上げていかないとね。研修会だけ聞いてそんな全部備わるわけでないんでね。それをやっぱり一つの糧にして、そしてそういうことをやっていくことが大事だと思う。そういう議員を一人でも多くしていくということで、今、研修会をやって少し皆さんの動機づけにさせていただければ一番いいのではないかと思います。

記者

議員定数ですが、各地方議会だと結構減っているところが多いと思うのですね。それに伴って仕事量が、1人当たりの負荷が高まっている議員も中にはいると思いますけれど、

昔と比べて議員の仕事量っていうのはどうお感じになっていらっしゃいますか。

福村議長

議員定数を削減することが「いい」か「悪い」か。まあ削減すること自体の競争をやったらいかんと思いますよね。減らせば減らすほどいいみたいな感じには私はとりませんけどね。まあある一定の人数はいると思います。しかし、無駄に多すぎてもね。これも税金の無駄遣いなんですね。今、石川県は確か48人、5人減らして43人にしておると、まあまあ40人ぐらいまでが限度なのかなと40人ぐらいまでがね。それ以下にすると今言われてたようなことが出てくるのかなと。今の4つの常任委員会が持てなくなる。人数が足りなくなるかと。3人や4人で委員会しとってもはじまりませんからね。だから石川県議会でいうと40人ぐらいが限度なのかなあというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

副議長の方で今回議会の総括があればお聞かせください。

徳野副議長

今回は災害とかいろいろあって、本県も珠洲の図書館の屋根が風で飛んだりした部分もあったりしたもんだから、ある意味本当にその災害という部分に逆にそれを見てどうそれに手をつけるというよりも、どれくらいの風圧でどれくらいのことを許可しているのかとか、そういうふうなことも聞いてほしかったし、ほかに10月1日から消費税が10%に上がることについて、あんまり質問を聞かなかったような気がするんですよ。10%に上がるということは、消費税の上った部分が地方にも来るが、そのかわり石川県の経済も落ち込むということに対して「どれくらいいただけるんですか」、「それに対して、国としてはどのような対策を打つんですか」という部分がちょっと聞こえなかったかなあと思っています。企業に対しての「融資の件の枠組みはこれだけしていますよ」という話はやっていましたけど、それは単なる融資の話であって、逆に景気が落ち込む可能性があるところに対しての予防的な部分、5,800億の予算をやっている部分と、逆に500兆の2%といえは10兆円ですからね。石川県もその部分可処分所得が減る中において、やっぱり県としての対応っていう必要な部分をなんか言ってほしかったなあと思っていたんですけど、なかなか他人様の意見ですので言えなかった部分もごさいます。

まあ議長にも言っていただいたように、なかなかスポーツもよかったなあと思います。個人的に野々市の中学生が100メートルで日本一になりましたが、あれだけでも本当にスポーツっていうのはわくわくしますんで、星稜も本当に気持ちよく見させていた

きましたし、そして明日から議長が行っていただく茨城国体のほうでもすばらしい成績があれば今言ったそういう部分もはね飛ばすこともできるかなあと思っています。

今回の議会は、本当に皆さんね、まあ突っ込んだ話をするとう嫌われる部分もあるから通り一遍というお話もあるんでしょうけど、もう少しなんか、まあ海洋プラスチックの話にしても、なんか全然答弁が「海洋プラスチックって言っても、石川県でそんなにごみを出していないだろう」とか「燃やせばいいのに」とかなんか全然違う趣旨に質問を変えられたのか、答弁で変えられたような気がして、なんか全体的にどういうふうにすればいいのかなあという感じがちょっと感じた部分ですね。第三者として見えていますからね。今度、自分が出るとわたわたになると思いますけどね。まあそこら辺をちょっともう少しやってね。経済にかかわる話なので、せめてその辺の話を誰か一人でもするかなあと思って聞いていたんですが、融資の話しかなかったのですね。